

ヒトの健康を守るため地球の健康を大切にしましょう！



衆済会 増子記念病院
理事長・院長 両角 國男

昨年5月のゴールデンウィーク明けに新型コロナウイルス感染症はインフルエンザと同じ5類相当となり、社会規制は解除されました。しかし、突然に世界中に拡散した新興感染症が社会に甚大な影響を及ぼしたことは皆さんの心の中に生々しく残っているものと思います。

航空機等の交通網整備により国際間移動の時間短縮は感染症を瞬時に全世界に拡散させることになりました。また、私たち医療者には感染症はほぼ完全に克服された疾病であるとの過信がありました。新型コロナウイルスに有効な治療薬はなく、ワクチンによる予防ができない事実と、感染後死亡率は極めて高い恐ろしい感染症の蔓延対策として社会封鎖を余儀なくされた不安は未経験のことでした。しかし、科学進歩は素晴らしく従来では考えられない速度でワクチンが開発され、世界中で使用可能となり、さらに新型コロナウイルスへの治療薬も登場してきました。我々を守るための医学進歩速度は等比級数的レベルで加速しています。これからの未知の感染症到来にも速やかな対応は可能と信じます。

話は変わりますが、20世紀以降の工業化を背景とした経済発展、便利な社会、科学進歩に伴う急激な変化が地球全体を巻き込んで進行し、地球の環境（＝健康）悪化が取り返しのつかない危険レベルに近づいています。地球温暖化は急速に進み、平均気温が2℃程度高くなった地域は多く、海面の上昇に伴い水没化し失われていく面積は拡大し、膨大な社会資産が消え果てていくリスクが高まっています。その結果、生態系への影響も計り知れないことは周知のことです。最近、地球の健康、人の健康、社会の健康の連鎖が話題となっています。

海洋に流入したプラスチックゴミが紫外線の影響を受け分解されたマイクロプラスチック、ナノプラスチック（MNPs）の生物系への影響が無視できなくなってきています。頸動脈狭窄で内膜剥離術を行った肥厚内膜内沈着物質の58.4%にポリエチレンが、12.1%にポリ塩化ビニールが検出され、貪食細胞内にギザギザの外来粒子が確認され、この肥厚内膜内にMNPsが検出された例は、陰性群に比べ4.5倍も心血管イベント発生率は上昇しています。MNPsは、魚類や貝類などを介した食物連鎖の結果としてヒトの体内に入り、血管内膜下に沈着した事実は近未来の生態系への甚大な被害を暗示しています。MNPsが生体に与える影響を避けるにはプラスチックゴミへの全世界的取り組みをさらに強化する必要があります。便利さより地球の健康とヒトの健康との連関を意識し環境に負荷をかけない資源の再循環が求められる社会が始まるようです。地球保護目的のエコ活動を大切にしたいと思います。

新任医師のご紹介です！

新たに2名の医師が増子記念病院に変わりました。
齋藤先生、神田先生、これからよろしくお願いします！

脳神経内科

さいとう ゆふこ
齋藤 由扶子先生



4月から入職しました脳神経内科の齋藤由扶子です。3月まで25年間、東名古屋病院にて主にパーキンソン病などの神経難病の診療を行いました。

疾患について共に考え、患者さんやご家族の話を聞くことが基本と思っています。増子記念病院では、難病のみでなく、腎臓病、糖尿病、高血圧に合併しやすい脳血管障害の診療を担います。発症予防と、再発予防、介護保険開始までのリハビリなど、お役に立ちたいと思っています。

腎臓内科

かんだ あきこ
神田 亜希子先生



4月より入職いたしました、神田亜希子と申します。2024年3月末まで愛知県豊田市にある豊田厚生病院の腎臓内科に勤務しておりました。

これまでは透析も含めて腎臓病一般の診療に従事しておりましたが、当院では主に血液透析患者さんを担当させていただきます。患者さん一人ひとりのお話をよく聞き、丁寧に診察することを心掛けてまいります。未熟な点多々あるかと存じますが、どうぞよろしくお願いいたします。

Topics

JHAT（日本災害時透析医療共同支援チーム）活動報告

クリニック昂 看護部 課長 上野岳洋

令和6年1月1日に発生した能登半島地震において、能登地区の7つの透析施設に甚大な被害（6施設透析不可）がありました。能登地区で生活していた透析患者約330名が透析を受けられない状況となり、県内（主に金沢市内）、富山県へ転院されました。その引き受け施設である金沢市河北郡にある「みずほ病院」へ、JHATの要請を受け2月25日～3月5日の期間、出動しました。現地では、2名1組となり、穿刺以外の透析業務支援を行いました。知らない土地で初見の患者に対する透析治療を、安全かつ確に実施するという高い緊張感の下では、チームワークの重要性を再確認しました。また、現地の職員も被災者でありながら患者のために尽力する姿に心打たれました。

この経験から、災害時の医療対応の改善点や訓練の必要性が明確となりました。今後、起こりうる様々な災害に対するリスク管理・震災への備え・対策を検討していきたいと思えます。JHATによる能登地区への透析業務支援は、3月31日をもって終了していますが、様々な問題が残っています。一日も早く心の安寧を取り戻せる日が来ることを願っています。



「シャント」手術ってどんなことするの？

手術室／慢性腎臓病療養指導看護師 佐藤麻由

今回、腎機能が低下し、血液透析療法を受ける上で必要な「シャントの手術」についてお話しします。シャントとは「血液透析を行う際に十分な血液量が確保できるように、動脈と静脈を体内で直接繋ぎ合わせた血管」のことを言います。このシャントを作るには、手術が必要不可欠になってきます。

<シャントの手術について>

血管の状態により、個人差はありますが、手術する部位は、利き手ではない方の腕で行います。手首より少し上辺りで自分の血管を使用して、シャントを作ることが多いです。傷の大きさは5cm程。手術時間は、2時間程度を要します。手術の最初に痛み止めの注射を行います。手術中も適宜注射を使うので安心して下さい。

<日常生活について>

手術当日は、安静が必要になりますが、翌日からは、手術した部位に負荷が掛からない程度に、お仕事、家事を行って頂くことは可能です。日常生活の注意点などは、看護師が分かりやすく説明させていただきます。“手術”と耳にするだけでも、不安や緊張は大きいと思いますが、私達、手術室看護師は、患者さんに、常に「安心を贈り続けること」を大切に看護ケアしています。スタッフ一同でサポート致しますので、安心してお任せ下さい。



「ますこ・すばる新聞 令和6年初夏号」

発行元：増子記念病院 広報委員会（令和6年5月）

医療法人 衆済会 増子記念病院
〒453-8566
名古屋市中村区竹橋町35番28号
TEL (052) 451-1307 / FAX (052) 451-1324
公式HP：<https://www.syusaikai.com/>

増子クリニック昂
〒453-0856
名古屋市中村区並木1丁目322番地
TEL (052) 412-8211 / FAX (052) 414-2962
公式HP：<http://www.hd-subaru.jp/>